

12月3日(土)実践・研究報告 発表者一覧
(地域課題解決全国フォーラムin庄内2016)

【セッション1】人材育成・COC+

【会場】103教室【司会】①中原浩子、②澤邊みさ子、③小野英一

時間	発表者	所属	一般/学生	題名	共同発表者	概要
13:00	谷口結万	東北公益文科大学	学生	日向地区から得た学び	渡辺芽衣(東北公益文科大学)	6月から8月の間、酒田市日向地区のシェアハウスに宿泊しながら地域活動に参加し、地域の魅力や課題を発見するプログラムに取り組んだ。滞在型ならではの魅力や学びがあり、五感をフルに活用した活動である。最終的には地域内外の方に地域の魅力を知ってもらうために、学生の視点からおすすめスポットを巡る「ミステリーツアー(資源発掘ツアー)」を企画した。プログラム終了後も交流は続き、現在も地域活動に参加している。
13:20	廣川祐司	北九州市立大学地域創生学群	一般	フットパスによる地域活性化を目指す人材育成モデル	石原遥菜(北九州市立大学地域創生学群)	本報告は英国発祥のフットパスを用いて、地域住民が主体的に地域活性化活動に取り組めるための人材育成モデルを提唱するものである。本モデルの達成には3段階を経る必要がある。まずはフットパス大学を受講し、正しい知識と技能を身に着ける。次に地域の方と共に活動し、コーディネーターとしての役割を担う。そして最終的には、地域の方が地域の方に働きかけを行う状態にまで促す。本モデルは、汎用的モデルとなると私は考える。
13:40	江渡緋里	東北公益文科大学	学生	庄内総合支庁での長期学外学習を通して【長期学外学習プログラム】		東北公益文科大学での長期学外学習プログラムにおいて、庄内総合支庁への長期インターンシップに取り組んだ。環境課、観光振興室、連携支援室で実習を行い、それぞれの分野でどんな取り組みが行われているのか知ることができた。また、公務員の幅広い業務に触れるだけでなく、それぞれの観点から山形県や庄内地域が持っている魅力や課題を発見できた。
14:00	田村守康	信州大学産学官連携・地域総合戦略推進本部	一般	信州大学「地域戦略プロフェッショナル・ゼミ」		信州大学のCOC事業「信州アカデミア」の一環として、社会人を対象にした実践型課題解決人材育成プログラム「地域戦略プロフェッショナル・ゼミ」を実施しています。今年が3年目となるゼミのテーマは「中山間地域の未来学」「芸術文化の未来学」「環境共生の未来学」。信州の中長期的な地域課題に対して、実践をもって課題解決をリードできる人材の育成を目指しており、既に100人を超える人材を輩出しています。
14:20	小関久恵	東北公益文科大学	一般	地域人材育成における大学の役割に関する検討		持続可能な地域づくりやそれに向けた地域課題解決にあたっては、担い手としての地域人材育成は欠かせないものである。大学の地域人材育成における役割を検討するため、大学COC事業採択校であり、多くの修了生を輩出している信州大学「地域戦略プロフェッショナル・ゼミ」及び東北公益文科大学における地域人材育成プログラムを比較することで、そのあり方を検討した。
14:40	内田晃	北九州市立大学地域戦略研究所	一般	北九州・下関まなびとぴあ(COC+事業)の取り組み ~学生の地元就職率を向上するための様々なプロジェクトから~		北九州市立大学では、地域で活躍する人材の育成を通じた地方創生事業を展開するため、北九州市と下関市の13大学・高専、3自治体、3経済団体の参画のもと「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に取り組んでいます。学生の地元就職率向上をサポートするために小倉駅ビル内に設置した「北九州まなびとJOBステーション」で実施している学生プロジェクト活動を中心に、同事業の概要を報告します。

【セッション1】人材育成・COC+

【会場】103教室【司会】①中原浩子、②澤邊みさ子、③小野英一

15:00	石黒朱莉	東北公益文科大学公益学部2年	学生	鶴岡市第一学区コミュニティ振興会における長期学外学修プログラムの実施報告		鶴岡市第一学区コミュニティ振興会における長期学外学習プログラムの実習内容と地域福祉、地域防災を中心とした学びの成果について報告を行う。
15:20	伊藤真知子	東北公益文科大学	一般	産学官の連携による女性人材育成プログラム開発に関する研究	坂本静香(東北公益文科大学大学院修士課程)	本研究は、庄内地域の企業女性の能力発揮、活躍促進のために、産学官の連携による女性人材育成プログラムを開発することを研究目的とした。方法は、先進事例(福井県)調査、地域の経営者・企業女性対象のアンケート調査、実験プログラム等である。女性の「自信のなさ」の解消、小さな成功体験、ロールモデルの提示等、得られた結果をもとに、潜在力を引き出す女性管理職養成プログラムを開発し、産学官の連携の可能性を検証した。
15:40	砂田 薫	宇都宮大学COC+事業推進室	一般	キャリア合宿「地元で生きる」を考える@日光」(フィールドワーク&ワークショップ)報告		本年9月24日(土)・25日(日)に、宇都宮大学の附属施設である奥日光のセミナーハウスに15名(宇大生7人、他学8人)が宿泊して、初日は日本で三番目に広い日光市を4チームに分かれ、街歩きしながら課題やアイデアを抽出した。夜は、21時まで若手移住者などの経験や想いをヒアリングし、ここまでインプットに充てた。21時から翌日12時まで、デザイン思考をベースにワークショップ形式で対話を重ね、「日光改革案」を壁新聞形式でアウトプットをして、13時から2時間各チーム発表の後、「日光市長賞」を選出した。
16:00	鈴木里緒	東北公益文科大学	学生	見解が広がった学修～日向の巻～【長期学外学修プログラム】	鈴木里緒(東北公益文科大学)、村上蓮(東北公益文科大学)	酒田市日向地区において実施した「地域おこし協力隊と実践する地域づくり(フィールドワーク)」について、プログラムの最終目的であったミステリーツアーの企画、運営などの活動内容や日向地区との繋がりや日向地区の人の温かさなど活動を通して得たもの、学びを報告する。
16:20	山下匡将	名古屋学院大学現代社会学部(講師)	一般	熱田区孤立を生まない地域づくり事業の成果～「してもらう側」から「する側」への役割の変化～	高木雅成(名古屋学院大学経済学部・学生)・椎葉政宗(名古屋学院大学現代社会学部・学生)	いわゆる“団地”である「市営南熱田荘」をフィールドに、「自治会インターンシップ」として教育実践を行った結果、学生は「教えてもらう側から支援する側へ」、住民は「支援してもらう側から支援する側へ」、それぞれ役割の変化が看取された。活動期間の違いによる認識の差異とあわせて報告する。※本報告は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(2015年度名古屋学院大学地域志向教育研究費)」の助成による研究成果の一部である。
16:40	工藤優真	東北公益文科大学	学生	長期学外学修プログラム～はまなし学園での実習を通して～		大学のギャップイヤープログラムで行った、福祉型児童発達支援センターである酒田市はまなし学園での実習について報告する。はまなし学園には、1歳～6歳までの障がいのある乳幼児が通い、訓練などを通して、利用児の早期療育や健全育成を目指している。実習では、利用児の1人を担当させていただいたり、様々な活動に参加させていただいた。その中で印象に残ったことや、実習を通して学んだことについて報告をする。

【セッション2】課題解決①

【会場】104教室 【司会】①齊藤徹史、②温井亨、③齋藤建児

時間	発表者	所属	一般/学生	題名	共同発表者	概要
13:00	小出 秀雄	西南学院大学経済学部	一般	大学生×地域活動＝ ∞ ～何をやるかは自 分次第～	久保田友加吏、林田明日 香、木寺広奈(西南学院大 学)	私たちは、西南学院大学と姪浜商店街が協働で行う地域活性化プロジェクトに自主的に関わっている、法学部と人間科学部の学生です。 本報告では、西南学院大学と姪浜商店街がコラボする「姪浜西南大学まち」(教育インキュベータープログラム)のこれまでの取り組みと、それにより得られた成果を発表します。その上で、個人別に、私たちがこの活動に関わる理由と、活動を通して得られた学びを、行政や福祉など様々な視点で報告します。
13:20	廣川祐司	北九州市立大学地域創生学群	一般	郷土愛の醸成による 地域課題解決への道	若宮早希(北九州市立大 学地域創生学群)	我々は、北九州市の猪倉地区において農業をツールとした地域活性化活動を行っている。具体的には、耕作放棄地を活用した地域ブランド商品の開発と、高所地区のために生じる買い物難民対策としての移動販売活動を行っている。 これらの活動を通じて住民の郷土愛が高まった。その効果として、住民による自立した地域課題解決への活動が起こった。本報告では、外部者に頼った方法ではなく住民が主体となる地域課題解決方法を提唱する。
13:40	大川 紗生	山形県立庄内農業高等学校 生物環境科3年	学生	絹糸だけじゃない、シルクの利用拡大を地域へ発信！	生物環境科3年 チーム 「知るシルク」 佐藤 咲希 小林 和貴	かつて明治時代に隆盛を極めた日本の「シルク」。しかし戦後にはシルク生産は衰退していきました。私達は庄内地域に根づくシルクの歴史と文化とともに、現在「シルク」に関わる地域文化を復活させる動きがあることを知りました。その中で「シルクゲル」に出会った私達は「シルクゲル」という地域活性化の未利用資源はここにある！と考え、「シルクゲル」の利用拡大を地域の課題として商品開発や情報発信などの活動を展開しました。
14:00	皆川 治	東北公益文科大学	一般	庄内地域における小水力発電の導入促進～水利権との関係を中心として～		庄内平野には山間部から平野部に張り巡らされた幅の広い農業用水利施設があり、地方創生の観点からも、地域による小水力発電への期待は大きい。その普及のためには、立地・系統接続・資金等の様々な制約があるものの、かんがい用水利権に従属する発電を超えた、取り組みの具体化が期待される。先進地における非かんがい期の水利使用の実態を含め、庄内地域における発電用の新規(上乗せ)の水利権の取得による通年での発電の重要性を提言する。
14:20	小出 秀雄	西南学院大学経済学部	一般	地域ブランドの確立を目指して ～活気ある姪浜商店街の復活を遂げるために～	重松修介、松園盛矢、桐原望、神崎健太、米倉沙良	私たち西南学院大学経済学部の小出ゼミは、姪浜商店街の活性化をテーマに活動しています。地域の人に話を聞いたり、アンケート調査をしたりする中で、地域の様々な課題が見えてきました。イベント時は人が多いですが、身内内での盛り上がりにとどまり、日頃は静かです。また、商店街自体を知っている人が少ない、という意見もあります。 本報告では、これらの課題を解決するための手段として、地域にブランド性を持たせることに焦点を定めます。
14:40	久間美晴、志田悠夏	新潟青陵大学2年	学生	地域ミッションインターンシップの取り組みについて	齋藤 智(新潟青陵大学福祉心理学部)	2016年8月下旬～9月上旬の2週間、新潟県内の中山間地である東蒲原郡阿賀町と新潟市中央区にある商店街を舞台に集中講義「地域連携実習Ⅰ」において学生自らが課題を見つけ、解決策を提案する「地域ミッションインターンシップ」を実施。 学生がチームとなってコミュニケーションをとり、各店舗が持つ課題を見つけ、解決策を話し合い、提案します。この活動を通して将来さまざまな課題に対応できる人材養成を目指しています。 今回の発表は、講義に参加した学生からの実践報告となります。

【セッション2】課題解決①

【会場】104教室 【司会】①齊藤徹史、②温井亨、③齋藤建児

時間	発表者	所属	一般/学生	題名	共同発表者	概要
15:00	松山 薫	東北公益文科大学	一般	建物の歴史的価値の発掘とその保全に関する研究―「日輪講堂」を事例に―		山形県庄内地域に存在する歴史的建造物について、その学術的な価値を発掘し、発信する。山形県飽海郡遊佐町の「日輪講堂」は、石原莞爾ゆかりの建物で、その建築様式の起源は、満蒙開拓青少年義勇軍の内原訓練所の「日輪兵舎」にある。昭和戦時期に各地に伝播した「日輪兵舎」様式は、現在は全国で4棟しか残っていない。時代を顕著に特徴づける建築様式及びその稀少性、日本史上著名な人物の関与という重要な属性をもつ「日輪講堂」の価値を再検討する。
15:20	佐藤緑	東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科	学生	高校を人材流出装置にしないためには	小野寺真希(同大学同学科)、渡辺紀子(同大学同学科)	私たちは、「SCH東北」という活動を行っています。この活動は、①高校生の地域活動の推進と、②それをサポートする高校・行政・民間のネットワークの形成を目的としています。若者の地元離れは、高校時に地域と関わる機会が少なくなり、進路決定時に地元という選択肢がなくなることが背景にあると考えています。そこで、高校生が地域に出て活動をするために、高校・行政・民間の3者が話し合うシンポジウムや、全国の高校生が実際の地域を歩き、アイデアを考えるアイデアキャンプを開催しています。
15:40	内藤悟	東北公益文科大学	一般	水循環基本法を踏まえた小規模流域の水環境管理		2014年の水循環基本法は、法律として水循環を規定し水関係分野の縦割りを是正するため、基本原則として流域が一体となった総合的施策の実施を基本原則とするが、個別流域の具体の施策は地方自治体に委ねられる部分が多い。河川管理の対象外の小河川・水路等について、地方自治体が独自条例により関与している先進事例から、地域における水環境管理のあり方を検討する。
16:00	齊藤 徹史	東北公益文科大学	一般	地域のイノベーションと経済活性化を促進する新たなPFIの研究		地方自治体がPFI事業を行うと、住民サービスの質の向上や公共事業費の削減だけでなく、地元企業の技術のイノベーション促進や競争力強化、地域経済の活性化などが期待できる。PFIの実施が全国的に低調になりつつあるなか、本研究は現行制度が抱える課題を探り、その解決を目指すための検討を行った。また、庄内地域での活用を念頭におき、研究を実践的な成果へとつなげるための取組みを行った。
16:20	山口泰史	東北公益文科大学	一般	②庄内町立谷沢地区における人口減少抑制策と地域活性化に関する研究(28地域課題基礎研究中間)	②平尾清, 鎌田剛, 皆川治(東北公益文科大学)	②庄内地域でもとりわけ人口減少が激しい庄内町立谷沢地区を対象に、地区総合センターを住民の“拠り所”とすべく、町主催のリニューアル検討会議や先進地視察などに参加している。また、島根県中山間地研究センターが開発した人口推計プログラムを使って移住(Uターン)の効果のシミュレーションを行い、人口減少抑制の実現に向けた協議を町と行っている。

【セッション3】課題解決②

【会場】105教室 【司会】①武田真理子、②山本裕樹、③白旗希実子

時間	発表者	所属	一般/学生	題名	共同発表者	概要
13:00	山口泰史	東北公益文科大学	一般	①庄内地域における若者の地元定着の要因と意識構造に関する研究(27地域課題基礎研究)		①庄内地域出身者を対象に、Uターン者と非Uターン者の意識構造の違いについて分析した。具体的には、25歳～34歳の高等教育機関(大学など)卒業者の協力を得て、庄内(Uターン者)と東京(非Uターン者)でグループインタビューを実施した。その結果、「Uターンしたい/したくない」という意識の違いより、「Uターンできた/できなかった」という状況の違いの方が、Uターンの有無に影響を与えることが明らかになった。
13:20	平松 緑	東北公益文科大学	一般	平成28年度地域課題基礎研究「地域資源の山形県花”最上紅花”を中心にした地域創生について	村上惇希(株式会社ardesign)、鈴木淳子(東北公益文科大学大学院修士)、鈴木伝三郎(鈴木農園代表)、北風秀明(株式会社アイデア代表取締役)	2015年度に引き続き2016年度には(1)最上紅花の効能についての普及、(2)最上紅花の年間を通じた栽培の可能性、(3)若菜のハウスでの栽培と葉の抗酸化能及び抗酸化成分の分析、(4)若菜粉のマウス脳内タンパク質への影響、(5)最上紅花若菜の若い栽培者の養成、(6)最上紅花の交流会の開催、(7)若菜の販売網の拡大 を中心に、地域創生への途上段階として行った内容と成果について紹介する。
13:40	秋丸 国広	愛媛大学社会連携推進機構	一般	「佐田岬しあわせプロジェクト」の実現を目指した連携活動	牛山眞貴子、小原克彦、山中亮(社会共創学部)、來住奈那美(教育学部)、大橋広明(農学研究科)、平尾智隆(教育・学生支援機構)	伊方町「佐田岬しあわせプロジェクトー亀ヶ池温泉を拠点としたヘルスツーリズム事業」を実現することを目的に、その基盤要素となる(1)健康教室プログラムの開発:学生の正課外活動(ダンス部)による伊方町民向けヘルスプロモーションプログラムを開発、と(2)有用植物栽培プログラムの開発、を伊方町と連携した活動として実施している。愛媛大学COC地域志向教育研究経費における活動状況について発表する。
14:00	白旗希実子	東北公益文科大学	一般	酒田市における放課後学習支援	國眼眞理子、(東北公益文科大学)、大泉春風、金田直、菊地由浩、須藤洋祐、横山広太郎(東北公益文科大学3年)、本間亮平(東北公益文科大学4年)	学習支援に関する国の施策及び実施形態は多様に展開されている。そうしたなか、学生の参加形態、学生のキャリア展望によって、学生にとっての意義も異なる可能性や、大学と学校の連携のあり方によっても課題が異なることが指摘されている。本発表では、酒田市において放課後学習支援をおこなう学生の実践から、彼らが得たもの・学んだものを明らかにするとともに、実践をおこなっていく上での課題(学生側の視点)を整理する。
14:20	石井 雅章	神田外語大学メディア教育センター	一般	地域課題への「向き合い方」を体感する授業実践		発表者は、「地域イノベーション」という科目において、学生が授業の予習として様々な地域活動に参加し、そこでの経験や気づきを授業時間内に共有して議論する形態の授業実践をおこなってきた。本実践では、与えられた「課題」をこなすのではなく、地域の人々と共に活動することを通じて、地域を体感し、そこから課題と向き合う態度形成を目指した。本報告は、この実践について報告する。
14:40	秋葉 徹	東北公益文科大学大学院 修士課程(アジアビジネス人材養成講座)2年	学生	庄内のインバウンド対応の課題について		東北公益文科大学大学院アジア人材養成講座の海外インターンシップとして2016年9月に訪問したベトナム・ラオスでの体験をベースに、庄内のインバウンド拡大のために必要と感じたことを、宿泊・交通・情報提供の3点について発表する。

【セッション3】課題解決②

【会場】105教室 【司会】①武田真理子、②山本裕樹、③白旗希実子

時間	発表者	所属	一般/学生	題名	共同発表者	概要
15:00	呉尚浩	東北公益文科大学	一般	山形県酒田市飛島における地区防災計画策定のための基礎研究	伊藤真知子、澤邊みさ子、小関久恵(東北公益文科大学公益学部)、岸本誠司(鳥海山・飛島ジオパーク構想推進協議会)	2016年度に、地区防災計画制度(内閣府)の趣旨に即して、山形県酒田市飛島において住民主体の地区防災計画づくりに取り組んでいる(主体:とびしま未来協議会<公益大もメンバー>、飛島コミュニティ振興会)。本報告においては、そのための飛島における基礎調査、島民ワークショップ、および先進事例調査の結果などを中間報告する。
15:20	丹野浩平	東北公益文科大学	学生	エンディングプランの作成体験を通じた市民の医療・介護意識の啓発活動	東北公益文科大学プロジェクト型応用演習受講生	本学主催の「やまがた多職種連携学生ネットワーク」においては、包括ケアの時代を迎えるにあたり、市民の主体的な医療・介護の選択を促すため、意識啓発の活動に取り組んできた。これまでに、老いや最期の過ごし方といった課題を“自分ゴト”として考えることを促す「エンディングプラン」の作成プログラムを開発し、各地の健康イベントにブースを出展。参加市民への意識啓発のきっかけづくりに取り組んできたので報告する。
15:40	鎌田剛	東北公益文科大学	一般	地域包括ケアシステムの構築に向けた市民参画モデルの研究		地域包括ケアシステムを構築するためには、医療機関同士の医療連携、介護も含む多職種連携のみならず、暮らしのレベルにおける企業・NPO・住民自治組織等との連携も必要とされる。本研究では、これらのセクターとの連携を、市民との“社会連携”として捉え、誰がどのような関係を築き、何を生み出すことが、安全・安心な地域システムの形成に資するかを理論的モデルとして明らかにし、提言するものである。
16:00	山本泰弘	3Ecafeプロジェクトチーム、青年シンクタンクRHO	一般	筑波大学の家具・家電等リユースプロジェクト「3E EcoCycle(エコサイクル)」の軌跡		大規模な学生宿舎を有する筑波大学では、卒業する学生がまだ使える家具・家電・生活雑貨を捨て、新入生が新品でそれらを買うという無駄が常態化している。これを、最低限の労力で最大限解消すべく発表者らが立ち上げたプロジェクトが「3E EcoCycle(エコサイクル)」だ。業務効率を重視した結果、従来型の取組に対し格段に合理的な家具・家電等リユースの仕組みが実現できた。
16:20	武田真理子	東北公益文科大学	一般	多様な住民参画による地域コミュニティの地域課題解決の推進方法に関する調査研究	伊藤真知子、呉尚浩、小関久恵、澤邊みさ子、渡辺暁雄(東北公益文科大学)	東北公益文科大学COC事業・平成27年度アクションプロジェクト「多様な住民参画による地域課題解決の推進による地域コミュニティの維持・発展のための人づくり」の担当教員6名が庄内の5つの地域を対象に実施した課題解決プロセスと活動参加者へのアンケート調査の分析結果及び主体的な地域コミュニティづくりのための多様な住民参画の推進方法に関する考察結果を報告する。